

58 多摩川の河川敷

まちづくり



受賞者：なし

推薦者：鯨井 教子 さん

【推薦コメント】

特筆したいことは、やたらと人口的に手を入れて整備してしまわないところです。そこに集う人が思い思いに自分のやり方で多摩川とのコミュニケーションを図れること。整備して、ここは何々場、ここは何々を楽しむところ、等の管理側の押し付けがないところが素敵です。

日曜日、おにぎり、缶ビール、新聞、読みかけの本をザックに入れて多摩川へ。

日差しを避けて木の下へ。シートを広げてまず360度に広がる空を見る。今の季節、夏から秋の入口へと変わる雲の様子が眼前に広がる。その中に街中では見られない鳥が時折姿を現し、また消えていく。

きらきら光る川面、飛び交うチョウ、春には桜のピンクの帯が。これらは、「目」の栄養。ビールとおにぎりは「身体」の栄養。「書籍」は頭の栄養。そして、自然の中に身をおいてリラックスするのは「心」の栄養。

こうして3時間ほど栄養たっぷり吸い込んで、月曜からの日常にまた戻ります。

【講評】

住宅開発等が進み、緑が少なくなっている中、多摩川の河川敷は唯一無二の粕江の大きな財産とも言えます。

自然にあまり手が加えられていないなどといった環境面の視点だけではなく、人が思い思いに過ごすことができる貴重な空間となっており、人の内面にもよい影響を与える癒しのスポットになっている点も含めて選定しました。河川敷で、自然とのふれあいや心身のリフレッシュを楽しんでみてはいかがでしょうか。